

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201099		
法人名	有限会社 ハッピーライフ		
事業所名	グループホーム チロリン村		
所在地	札幌市北区篠路4条2丁目3番8号		
自己評価作成日	平成28年5月1日	評価結果市町村受理日	平成28年7月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=0170201099-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マルシェ研究所
所在地	北海道江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成28年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「特に力を入れている点」
 企業理念でもある、「その人らしい暮らし方の支援」に向けて、認知症介護を最大限に発揮する為に就業規則や職員処遇改善加算等を整備し、体制作りをより確実に実施する為の職員と設置者を含めた全体研修会を毎月1回開催し、且つ、職員の個別研修会を計画的に実施することで職員個々の認知症介護に対する資質向上を図っている。
 「アピールしたい点」
 住宅街に囲まれて、一般家庭のようなゆったりとした生活空間の中で、共同生活をしながら町内会のお祭りの出店で買い物をしたり、子供みこしがチロリン村まで来てくれて子供達との交流も出来、町内会の運動会にはプログラムにある競技に皆で参加して景品をもらう等、地域社会の一員として生活しているような生活環境の維持に設置者と職員が一同になって取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は家族の介護体験から、自分の家族と同じように利用者に温かい介護ができる事業所にしたいと、平成14年に1ユニットで開設し、本来の機能を確実に果たすべく、きめ細やかなケアサービスを実践している。代表者は職員就業環境の整備と、人材育成を図るための研修体制の充実に努め、職員は考える力を養い、スキルアップを図りながら、より良いチームケアに取り組んでいる。運営推進会議には、多くの参加者を得て、情報の共有を図る事で、利用者、家族、地域住民の繋がりを深くし、町内会行事の参加や事業所主催の夏祭りへの招待と、双方向の関係を築いている。家族とは、家族会を年2回開催し、家族同士の交流を深めながら、アンケートを集約して運営に反映させるなど、家族の協力は利用者の快適な暮らしに繋げている。事業所は看取りを経験しており、医師、看護師、職員が一丸となり、利用者、家族の望む終末期を支援し、職員は常に、その人らしい暮らしの継続に向けて、利用者一人ひとりを支え、意欲を引き出すケアに取り組んでいる。施設長が実践者研修の指導者として講師を依頼され、その研修生や中学生の職業体験を受け入れるなど、培った知識と経験を地域貢献にも活かしており、事業所は地域の一員として認められた存在となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、設置者と職員が共有した地域密着型としての取組みを進めている。	管理者、職員は開設時に作成した理念が現状に沿った理念であるか、理念がケアに反映されているか、月1度開催される全体研修会の中で毎回振り返り、意識付けを図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加盟し、町内会の行事に参加し、「こども110番の家」「認知症高齢者110番の家」「AED」貸出事業所として、地域とのつながりを保っている。	近隣住民とは馴染みの関係にあり、町内会行事にも積極的に参加している。事業所主催の夏祭りや避難訓練、運営推進会議にも地域住民の参加や応援を得ている。中学生の職業体験も受け入れ地域貢献に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「チロリン村便り」の発行や「中学生の職業体験」等により、地域への認知症の人の理解を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、町内会、家族、知見者等からの意見を受け、サービスの向上に努めている。	運営推進会議では、事業所の活動状況の報告の他に、利用者を支える議題を幅広く取り上げ、サービス向上に努めている。さらに、レクリエーション情報の収集や事業所前に街灯の新設、道路補修の要請を促すなど、双方向的な会議になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市事業指導課や北区役所保護課又は第2包括支援センター等より指導を受けながら進めている。	市の担当者とは、代表者が中心となり常に連携し協働関係を築いている。運営推進会議には地域包括支援センター職員の出席を得て、情報交換を行い連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者も含めた身体拘束委員会を設け、全員参加型の研修会において、「身体拘束ゼロ」に向けて取り組んでいる。	マニュアルを整備し、身体拘束委員会が中心となり、全体研修会で身体拘束の弊害について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出傾向にある利用者には職員が見守り、閉塞感を与えないように配慮している。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止委員会」で検討されたことを、全体研修会において、グレーゾーンの洗い出しをし、お互いのコミュニケーションの中で防ぐことに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	第2包括支援センターや司法書士等に相談できる支援の元で進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス開始時の契約書や重要事項の説明には時間をかけ、利用者や家族の不安や疑問については、納得できるように説明し不安や疑問が残らないように進めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時は、個別に要望や相談に応じ、「家族会」では、無記名アンケートをとり、運営に活かしている。	家族とは、年1回のアンケート調査を始め、年2回の家族会や運営推進会議、来訪時などで意見、要望を引き出し、迅速な対応に努めている。毎月発行のホーム便りでは写真を掲載し、暮らしぶりを伝えている。管理者は年2回、各家族に手紙を書き、利用者の体調や状況などを報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「職員の声」の箱を設置し、集約したものは全体研修会において検討、改善へと向けて進めている。	管理者と職員は、日常的に率直に話し合える関係性を築いている。「職員の声」の箱を設け、常に発信し易い環境が整備されている。職員の意見や提案は全体研修会で検討し、運営に反映している。キャリアパス制度を導入し、個人面談も実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しやキャリアパス要件等の内容を整備し、活力のある働きやすい職場環境を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め	認知症介護指導者が中心となって、個別研修の実施と外部研修や資格取得への時間の優遇に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者も交え、管理者は率先して近くの同業者と一緒に町内会の行事に参加し、お互いの交流に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との良好な関係作りと生活状況を知る為に、サービス開始前に管理者や総合施設長が面談し、安心してもらえる関係作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には、利用者や家族の不安や要望を率先して聞き取り、利用者本人に何が一番なのかを話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や担当ケアマネからの情報を得ながら本人や家族の意向を受け、他の社会資源も含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力を尊重し、お互い助け合っている生活環境を大切に支援に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス開始前は家族からの利用者情報を受け、開始後は、利用者の健康状態や生活の様子を管理者から家族に伝えることでお互いの関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族意向や利用者本人の意志を尊重しながら、外出や馴染みの場所への支援に努めている。	知人の訪問は多く、事業所としても歓迎している。美容院や馴染みの店での買い物、写真館での撮影など、利用者の要望に職員が支援している。自宅訪問や法事などの遠出は家族の協力の下に関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の特性を把握し、孤立したり、利用者間での問題が発生しない様、職員が中に入り良い環境を保っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も1周忌には花を送ったり、家族からの相談ごとを受けたりして支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	大半の利用者は、思いや意志表示を表現できない中で、家族の意見を取り入れ、本人本位の考えを持って支援に取り組んでいる。	非言語的コミュニケーション技術を取得している管理者の指導の下に、職員は利用者の思いの把握に努めている。家族からの情報も参考に、カンファレンスで話し合い、意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個々の生活歴やライフスタイルを把握し、馴染みの生活環境に向けての支援に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを尊重し、利用者個々の役割を見つけ出して潤いのある生活に向けた支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、主治医の指導も受けて「その人らしく」幅を広げた介護計画を作成している。	介護計画は、利用者担当職員と介護支援専門員で暫定プランを作成し、カンファレンスの中で全職員と話し合い、気付きや要望を反映させている。さらに、サービス担当者会議に利用者、家族が参加し、主治医の意見を参考に検討し最終プランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者への気づきや、利用者からの訴え等を集約し、全員で検討しながら介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族事情によっては、通院や入退院時の送迎を臨機応変に対応し、入院中は短期利用の受け入れも可能としている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、町内会、民生委員等と協力を受けての支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を確立し、主治医診療を主とする中で、家族や利用者の要望によりかかりつけ医の受診の支援も取り入れている。	協力医療機関による隔週毎の訪問診療を行っているが、他のかかりつけ医への受診には、家族または職員が付き添い支援している。看護師は毎週訪問し日々の健康管理に努めている。緊急時は、医師、看護師共に24時間連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隔週で看護師の訪問を受け、日常の変化について報告し、指導を受けながら、特変時には、直接看護師の携帯と連絡できる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行った	家族や利用者を交えて、主治医との退院計画を立てた相談を持ちながら進めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス開始時に、家族との間で、終末期は、主治医を交え家族の意見を尊重しながら利用者中心とした考え方で進める事の同意を交わしている。	医療連携体制を整備しており、「重度化や終末期に於ける対応指針」を作成し、入居時に利用者、家族に説明し、同意を得ている。利用者の体調変化に伴い、医師と相談しながら家族と話し合い、再度同意書を交わし方針を共有して、チームケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急救護普及員を中心とし、普通救命の研修を受講させながら、全体研修会に於いて初期の手当等の研修を実施している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害も含め火災発生時の避難訓練を町内の近隣も含めて年2回実施している。	消防署や消防団の協力や指導の下に、自然災害を含めた避難訓練を地域住民の参加も得て年2回実施している。応急手当救護普及員の取得職員が中心となり、研修も行っている。マニュアルを整備し、食料、飲料水、防寒用具など確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者や家族の権利等について個別研修や全体研修に於いて指導をし、利用者のプライバシーの保護に努めている。	代表者や管理者は、利用者の尊厳維持に繋がる接遇研修を行い、職員の共通理解に努めている。入浴時や排泄時にバスタオルを使用したり、誘導の声掛けも耳元で行うなど、利用者に合わせてケアサービスに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	非言動的コミュニケーション技術をチームケアに反映させた支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の体調や残存能力に配慮し日々のペース配分に柔軟な支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々に合った整髪と自己選択が出来る利用者については、四季に合わせた服装の選択が出来る体制にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者自身が盛り付けをした食事を皆と一緒に食べられる満足感と共同生活の楽しさを感じられる支援に努めている。	昼食は外注であるが、朝・夕食は食事担当職員が中心となりメニューを作成し、定期的に保健所にてカロリーチェックを受けている。畑で収穫した野菜を食材に活用したり、誕生日には手作りケーキで祝ったりする他、行事食や外食も取り入れ変化を楽しんでいる。食事の準備や片付けは利用者の力量に合わせて共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養摂取については、1日平均1200KCal～1500KCal程度で、水分摂取は1日1000cc～1500ccを目安にして、体調維持管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、3度の食後と1日4回の口腔ケアを実施して口腔状態の管理をし、月に1回は歯科衛生士による洗浄も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、可能な限り時間誘導し、トイレでの自力排泄に向けた支援に努めている。	誘導や介助が必要な利用者には、アセスメントシートでパターンを把握し、尊厳に配慮した声掛けを行い、トイレでの排泄支援を行っている。衛生用品は、どのような形態を使用するか家族と相談しながら、検討し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分摂取と適度の運動等による自然排便を促すような支援を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を記録し、利用者に対して平等に入浴できるよう、午前午後問わず利用者の体調に合わせた支援に努めている。	現在は入浴を拒む利用者も無く、体調に配慮しながら、週2回以上を目安に支援している。夜勤帯以外は、利用者の希望に沿って、毎日入浴出来る体制である。同性介助の希望にも対応している。花の季節には、菖蒲湯や花びらを浮かせるなどして入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早寝、早起きを基本とし、日中は適度の運動を取り入れ、昼寝は20～30分程度とした、日内リズムを整える支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの服薬説明書によって、誰でもいつでも内容確認をしながら支援出来る体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活能力を把握し、それぞれの役割や趣味嗜好が楽しめるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調を考慮し、天気の良い日は車を使った外出支援も計画し、家族との外出、外食にも可能な限り協力している。	月に2～3回は外出を計画している。パークゴルフを楽しんだり、花見や紅葉狩り、葡萄狩り、神社祭などにも出かけている。日常も畑作業や散歩、買い物に出かけるなど、気分転換を図っている。家族の協力を得て、外泊や遠出も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物可能な利用者には、預り金の中から日用品程度の買い物やお祭りで駄菓子を買って食べる等の買い物支援も取り入れている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族宛に利用者自筆で暑中見舞いや年賀状を出し、電話対応は、可能な利用者については直接つなぐ支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症高齢者の特性を考慮し、直接光が目に入らないダウンライトを主とし、室内の殺菌も兼ねて、空気清浄器、加湿器、除湿器、エアコン等を設置し、室内温度を調整している。	室内には空気清浄機やエアコンが設置され、臭気・温・湿度が適正に保たれている。職員事務所や台所の対面式カウンターなど低い家具を配置し利用者を見守り易くなっている。ベランダからテラスに出易く、外気浴や季節を感じながら、お茶を楽しむことが出来る。玄関前のエントランスも広く、休憩用のベンチが設置され、それぞれが自由に寛げる場所を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルは3ブロックに分け、居間のソファの他に個別のソファも設置して、利用者それぞれが落ち着ける居場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々の居室には、使い慣れた好みの家具を持ち込んで、家族来所時には居室でもゆっくり会話ができる環境にしている。	居心地よく過ごせる様に、家族や利用者の希望と状況を見極めながら、馴染みの家具を配置している。居室には歩行の支えになる手すりが設置されている。衣類なども整理し易い収納棚が備え付けてあり、使い勝手の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の出来る事出来ない事を洗い出し、利用者の負担にならないように出来る事の自立に向けた支援を心掛けている。		